

業務執行理事就任のご挨拶

6月に業務執行理事に就任しました岩本 卓です。この場をお借りしまして、皆様にご挨拶を申し上げます。

私は、本年3月まで三井住友海上火災保険株式会で36年間の損保マン人生を歩んでまいりました。職歴としては、管理部門と営業部門が約半々ですが、最後の方は品質管理や内部監査などの内部統制関連業務を担ってきました。

永年、損保業界に身を置いてきたため、お客さまである企業のリスクマネジメント計画の策定や福利厚生制度の企画などに数多く携わり、また自然災害や事故対応さらには賠償請求事案などの、さまざまな事故・トラブルにも遭遇してきました。

その中で最も記憶に残っているのは、2011年3月11日の岩手支店在籍時に発生した東日本大震災です。盛岡市の支店はほぼ無傷でしたが、沿岸地域の宮古市の事務所は全壊し、津波の被害を逃れるため港の近くから内陸部に移設したばかりの大船渡市の事務所にも津波が到達し、大きな被害を受けました。幸い社員本人の人的被害は無かったものの、停電と通信施設の破壊のため電話もイントラネットも使えず、社員全員の安否が確認できるまでかなりの時間を要しました。その後は、自宅が全壊して避難所暮らしになった社員や代理店の方々の支援に奔走しました。

そのような中で最も大事な仕事は、保険会社の本来業務である、被害を受けられたお客さまへの保険金のお支払いです。時間がかかり過ぎる従来の調査方法に代わり、航空写真で全損地域を一括認定するなど、速やかに保険金をお支払いするように努めました。その結果、被災されたお客さまから思いがけず感謝の言葉をいただくこともあり、保険会社の社会的使命の大きさと責任の重さを再認識しました。

初期対応が一段落した時点で改めて思い知らされたのが、地震そのものの被害よりもはるかに大きな津波による被害でした。津波による損害は、陸上と同様に港湾施設にも大きな爪痕を残していました。東北地方の沿岸部は、生活の糧の多くを漁業・港湾関連産業に頼っており、「港」が無くて

は地域経済が成り立ちません。また防波堤や防潮堤は、今後30年以内に90%以上の確率で発生すると言われていた宮城県沖地震から命を守るために必要不可欠なものです。一方、震災復旧では速やかな主要港湾の啓開により、陸路が断たれた沿岸部への支援部隊・機材・物資の搬入に絶大な威力を発揮しており、社会インフラとしての港湾の重要性を痛感しました。

このたびSCOPEに勤めさせていただくことが決まった際に、SCOPEが震災復興で大きな役割を担っていることを知り、「ご縁」を感じました。またSCOPEは業務面で、関係先から大きな期待を受け、重大な責任を担っていることを認識しました。今後は、これまでの経験を活かし、少しでもご恩返しができるよう、またお役に立てるよう努力する所存ですので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



業務執行理事
岩本 卓

CONTENTS

- 1 業務執行理事就任のご挨拶
- 2 「第3回評議員会」「第12回理事会」の開催報告
- 3 第31回SCOPE講演会報告
- 4 研究開発助成成果報告会
- 4 ベトナム出張報告
- 6 SCOPE 現場訪問 —沖縄の観光客数 1000 万人達成のために—
那覇空港滑走路増設整備事業
- 8 SCOPEからのお知らせ

「第3回評議員会」「第12回理事会」の開催報告

(経営企画部 総務課長 木崎 朋弘)

平成27年度最初の評議員会を6月18日(木)当センター6階の会議室で開催しました。

午後3時に始まった評議員会では、まず始めに当センターの矢代理事長から挨拶があり、その後来賓としてご出席いただいた国土交通省大臣官房技術参事官の菊地様ご挨拶の後、事務局より定足数確認の報告が行われました。次に評議員の互選により中村評議員が議長に選任され、議案に入る前に議事録署名人大谷評議員・善評議員2名の確認をした後、審議が進められました。「平成26年度事業報告・決算報告」他2件が審議され承認されました。その他として「平成27年度事業計画・収支予算」他を報告いたしました。内容は以下のとおりです。

【審議事項】

第1議案「平成26年度事業報告及び決算報告について」

- 1) 「平成26年度事業報告」について岩崎専務理事より、昨年度実施しました、事業に関する調査研究事業、システムに関する調査研究事業、情報収集・提供に関する事業、技術の普及・啓発事業、審査・認定事業、技術支援事業及び東日本大震災復旧・復興事業について、具体的な事例をもとに説明を行いました。
- 2) 次に、平林業務執行理事が「平成26年度決算報告」について、一般財団法人移行後2度目の決算であり、昨年決算額との比較をして以下のとおり説明を行いました。

【平成26年度の決算額】

経常収益額	6,257百万円
経常費用額	6,036百万円
税引前利益	221百万円
税引後利益	138百万円

前田監事より監査結果について、適正に行なわれている旨の報告がありました。採決の結果、全員異議がなく原案と承認されました。

第2議案「理事・監事の選任について」

第11回理事会において審議され、本評議員会に推薦する新任理事候補者3名、再任理事候補者4名、再任監事候補者2名、採決の結果、全員異議がなく原案と承認されました。併せて、退任理事3名及び非改選理事2名について報告をいたしました。

新任理事、再任理事・監事、退任理事、非改選理事は以下のとおりです。

- ・ 新任理事：中尾 成邦、岩本 卓、大野 正人
- ・ 再任理事：縣 忠明、大橋 正和、大本 俊彦、松田 英三
- ・ 再任監事：稲村 肇、前田 博
- ・ 退任理事：矢代 博昭、佐藤 孝夫、平林 憲行
- ・ 非改選理事：岩崎 三日子、江河 直人

第3号議案「定款の一部改正について」

第11回理事会において上程された、「評議員会の召集を会長に定めているが、会長不在の場合は理事長が招集することを追加する」定款の改正について審議され、全員異議がなく原案と承認されました。

【主な報告事項】

「平成27年度事業計画及び予算について」

- 1) 岩崎専務理事が「平成27年度事業計画」について説明を行いました。「平成27年度は一般財団法人に移行して3

年目にあたり、本部、建設マネジメント研究所及び11支部を通じ、効率的な調査研究と技術支援等の業務実施を行えるような人材の確保と適正な配置、研修による人材育成によって、業務実施体制の充実化を図る」ことを基本的な方針として、従来の6事業を行なう事(1. 技術に関する調査研究 2. システムに関する調査研究 3. 情報の収集・提供 4. 技術及びシステムの普及・啓発 5. 審査・認定 6. 技術支援に関する事業)の説明を行いました。

- 2) 平林業務執行理事が「平成27年度予算」についての説明を行いました。

・平成27年度予算

平成27年度収支予算書の内訳は以下のとおりです。

経常収益額	6,505百万円
経常費用額	6,440百万円
税引前財産増減額	65百万円
税引後財産増減額	30百万円

「公益目的支出計画実施報告書の件について」

平林業務執行理事が平成27年6月に内閣府に申請する「公益目的財産額」に対する平成26年度決算で確定した公益目的支出額について報告をおこないました。平成26年度の確定額は以下のとおりです。

普及啓発事業	経常収益額	18百万
	経常費用額	104百万
情報収集提供事業	経常収益額	20百万
	経常費用額	39百万

審議案件・報告案件了後、岩崎専務理事より「SCOPEを取巻く最近の状況」について評議員の方々に報告を行ない、本評議員会を終了いたしました。

次に午後4時から理事会を開催し、当センターの岩崎専務理事を議長として議事が進められ、次の6議案が審議され全て承認されました。

第1号議案「理事長及び業務執行理事の選任の件」では、評議員会で選任された中尾理事を理事長、岩本理事、大野理事を業務執行理事に選任ことについて提案され、採決の結果、全員異議なく提案どおり選任されました。なお、岩崎専務理事及び江河業務執行理事は変更はありません。

第2号議案「専務理事及び業務執行理事の業務決定の件」では、岩崎専務理事、江河・岩本・大野業務執行理事の業務分担の提案を行ない、採決の結果、全員異議なく原案のとおり承認されました。

第3号議案「会長、理事長及び専務理事欠けたとき等の理事会を招集する理事順序の件」では、招集する理事についての順序について説明を行い、採決の結果、全員異議なく原案のとおり承認されました。

第1号議案・第2号議案・第3号議案で承認された、常勤理事の役割分担は以下のとおりです。



【常勤理事及び役割分担】

理事長（代表理事）	中尾 成邦	経営全般
専務理事（代表理事）	岩崎 三日子	組織運営全般、経営企画部、審査認定部担当
業務執行理事	江河 直人	建設マネジメント研究所、調査、システム担当
業務執行理事	岩本 卓	財務会計担当
業務執行理事	大野 正人	経営企画、技術支援、災害対策支援、安全推進担当

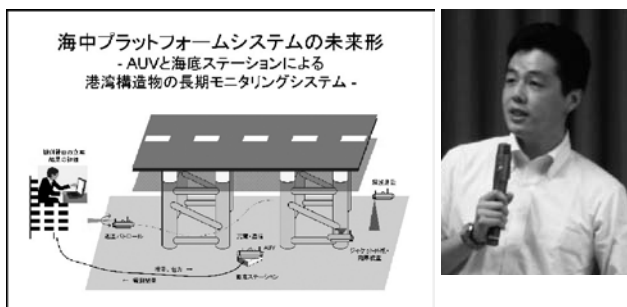
第4号議案「役員候補者審査会の委員の選任の件」では、任期が満了する委員4人について再任することについて審議を行い、採決の結果、全員異議なく原案のとおり承認されました。

- ・ 再任委員：縣 忠明、稲村 肇、近藤 健雄、廻 洋子

第31回SCOPE講演会報告

7月1日16:00より、東京大学生産技術研究所 巻 俊宏 准教授に「海中プラットフォーム技術の現状と展望」と題して講演していただきましたので、報告いたします。

講演の要旨は以下のとおりです。



1. 海中ロボットの分類と長所・短所

- ・ HOV：有人潜水艇（機動戦士ガンダム）
 - ・・・しんかい6500（JAMSTEC）
 - 長所： 複雑な作業が可能、自由に動ける
 - 短所： コストがかかる、安全対策が必要、エネルギー（作業時間）の制限がある
- ・ ROV：遠隔操縦ロボット（鉄人28号）
 - ・・・ハイパードルフィン（JAMSTEC）
 - 長所： 有人並みの複雑な作業が可能、長時間・大パワーの作業ができる
 - 短所： 支援装置が必要、行動範囲が制限される
- ・ AUV：自立型水中ロボット（ドラえもん）
 - ・・・REMUS（米国）、HUGIN（ノルウェー）
 - 長所： 自由に動ける、支援装置が不要で低コスト
 - 短所： エネルギーの制限がある、複雑な作業ができない

2. AUVについて

2-1. 形式

- ・ クルーズ型：魚雷型で推進効率が良い、広範囲の観測が可能
- ・ ホバリング型：三方向の推進器があり複雑な動きが可能
- ・ グライダー型：浮力変化で移動し、長距離・長期間の観測が可能

2-2. AUVの構成要素

- ・ 頭脳：コンピューターとプログラム

第5号議案「顧問の委嘱の件」では、前理事長、「矢代 博昭」氏の顧問委嘱について審議を行い、採決の結果、全員異議なく原案のとおり承認されました。

第6号議案「組織規則一部改正の件」では、7月1日より設置する「安全推進室」について審議を行い、採決の結果、全員異議なく原案のとおり承認されました。

【報告事項】

理事会での審議終了後、岩崎専務理事・江河業務執行理事が各々の業務の執行状況について、理事・監事に報告をいたしました。

最後に、今回の評議員会及び理事会の開催にご協力いただきました関係者の皆様に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

（公益推進課 入部 忠道）

- ・ 通信機器
- ・ 推進器
- ・ 測位、航法機器
- ・ エネルギー源
- ・ 観測機器

2-3. 技術的課題

- ・ 電磁波が使えない：超音波は不安定、ケーブルが必要
- ・ 水圧：耐圧容器が必要、浮力材（高価）が必要、水漏れ対策が必要、実験が困難
- ・ 透明度：視界は良くても数10m、1m先が見えないことも、ソナーが必要
- ・ 地図がない：大まかな地形しかわからない、障害物
- ・ 位置決め：音響測位には誤差がある、不安定

2-4. 社会的課題

- ・ 市場が小さい：石油開発と軍事が主で国内マーケットが小さい
 - ・ メーカーが育たない：海外メーカーに依存
 - ・ 認知度が低い：重要度が理解されない
- 以上の3要件で「負のトライアングル」が形成されている。

3. 東大におけるAUV研究

- ・ 海底の画像観測：海底画像マッピングのためのナビゲーション手法の開発
- ・ 計測手法：光切断による3次元計測
- ・ 鹿児島湾での観測実験：ランドマークの活用、画像相関による位置合わせ、3次元マッピング
- ・ 釜石湾港防波堤での観測実験：防波堤をランドマークとして活用、壁に垂直方向と沿った方向で位置の精度に差が出る
- ・ 羽田D滑走路（ジャケット）での検計：相対ナビゲーション
- ・ 海中プラットフォームシステム：AUVの機能向上に加え、観測船、ROV、海底ステーション、自律ボート等を組み合わせたシステムが重要
- ・ ロボットの知能向上：指定したルートの観測後、観測漏れを自分で判断し不足分を再度観測しに行く機能
- ・ ホバリング型AUVの活用：海底ステーションへのドッキング、充電

4. 海中プラットフォームシステムの未来形

- ・ 海底ステーションにAUVが常駐

- AUVが定期的にパトロール又は観測を実行
- 緊急事態が生じたときはAUVがそこに急行
- 船舶は使用せず、海底ステーションとケーブルで接続
- ケーブルを通じて情報の伝達、AUVの充電、等

研究開発助成成果報告会

7月8日に「研究開発助成（平成26年度実施）成果報告会」を尚友会館8階会議室で開催しました。

研究成果は、下記の9名の研究者の皆様にご発表いただきました。セッション1ではコンクリート構造物の劣化とその評価に注目した研究成果が4件、セッション2では巨大地震に対応する手法を、設計的、診断技術、BCPの観点から提案するものが3件。セッション3では、土砂処分場長寿命化のための容量拡大、土砂の再利用による減容化などの発表がありました。各発表に対して会場からも熱心な質問が多数出され、主催者の予想以上に活発な討議が展開されました。

各報告の内容はスコープホームページのメインメニュー「研究開発助成」(<http://www.scopenet.or.jp/main/research/result-26.html>)のページをご覧ください。「概要」「報告書」「発表資料」のpdfファイルがご覧いただけます。

本報告会は、時間的には半日程度で様々な研究成果にふれられる会となっております。発表された研究者の皆様、ありがとうございました。本誌の購読者の皆様、来年も本報告会にご参加ください。



【セッション1：港湾施設の維持管理技術】

- (1) 塩害劣化を受けるRC構造物の耐久性設計と維持管理の連携
東京理科大学理工学部土木工学科 加藤 佳孝 准教授

5. 海外の紹介

- AUVの紹介
- 研究の状況

(建設マネジメント研究所 副所長 水上 純一)

- (2) 栈橋下面コンクリートのかぶり品質の非破壊評価方法の開発
香川高等専門学校建設環境工学科 林 和彦 准教授
- (3) 鋼コンクリート接合部に鋼材腐食が生じた港湾・海岸及び空港施設の健全度評価手法の構築
東北大学大学院工学研究科土木工学専攻
内藤 英樹 准教授 (研究代表：鈴木 基行 教授)
- (4) 40年間海水に曝されたプレストレストコンクリート梁の健全度評価―塩害による有効プレストレスへの影響―
東京工業大学大学院理工学研究科国際開発工学専攻
大即 信明 教授

【セッション2：大規模災害対策技術】

- (5) 栈橋の地震被災後の供用可能性判断手法の開発
神戸大学都市安全研究センター 長尾 毅 教授
- (6) 南海トラフの巨大地震等の大規模災害発生後の港湾及び海岸保全施設の速やかな復旧に向けた海上工事施工能力の継続性確保に関する研究
京都大学防災研究所 小野 憲司 教授
- (7) 巨大地震に備える広域廃棄物処分のための海面処分場の設計と構造に関する研究
広島大学大学院工学研究院社会環境空間部門
土田 孝 教授

【セッション3：長寿命化・リサイクル技術】

- (8) 築堤を繰り返した土砂処分場の安定性評価の検討
東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻
北詰 昌樹 教授
- (9) 浚渫土砂を用いた環境に優しいブロック製作技術の開発
九州大学大学院工学研究院社会基盤部門 平澤 充成

ベトナム出張報告

初めにベトナム国の港湾工事における日本国の貢献を簡単に説明したいと思います。

日本政府は、平成23年から毎年2000億円を超えるODAをベトナムに援助しており、ODA実施に伴い日本の港湾技術基準も日本のコンサルタントによって導入され、ベトナムの技術者にも知られるようになってきました。しかしながら、日本基準だけでは、気候も海象条件も異なるベトナムの実情に対応できない場面があり、また30年前に旧ソ連基準から転用した既存のベトナム基準とも合致しない場面もありました。このため、設計上・施工上に課題が発生し、特に検収時に基準の相違点の解決が問題となり、発注者と業者との間で紛争の種となってきました。また、ベトナム技術者にとっても、既存のベトナム基準では定められていない設計、工法、材料が港湾施設の建設に用いられるようになっており、これらの新技術を踏まえた新しい基準の作成が喫緊の課題と言えます。

このような状況の中、「日本の港湾施設の技術基準に係る合同

(建設マネジメント研究所 国際技術支援戦略室 上席研究員 有田 恵次)

セミナー」(平成24年12月ハノイ)に参加するため、当時の矢代理事長、大村広島支部長と青位主任研究員がSCOPEとして初めてベトナムを訪れました。その後、国総研を中心に、日本の港湾技術基準をベースにベトナムの技術基準を作成するための検討が始まり、まず、港湾施設の設計基準の検討をすることとなり、OCDIとベトナム技術者が検討にとりかかりました。



▲平成26年度 第1回WS (ハノイ) ▲平成26年度 第2回WS (日本)

この動きと並行して、SCOPE は日本の「港湾工事共通仕様書」英訳版を平成25年10月に出版し、これを海外に普及させるため、同年10月に開催された国総研・OCDI の第1回目のワークショップ

において、ベトナムの港湾設計・建設の関係者に紹介しました。この中で日本の港湾施設の技術基準は、設計、施工、検収と統一された体系になっていること、設計思想を完結させるためには、施工管理が必要であることを説明しました。これらの取り組みを経て、平成26年3月に、国交省とベトナムMOT（交通運輸省）との間で、設計・施工・検収・維持管理に係るベトナム基準の策定を支援する旨の覚書が交わされました。

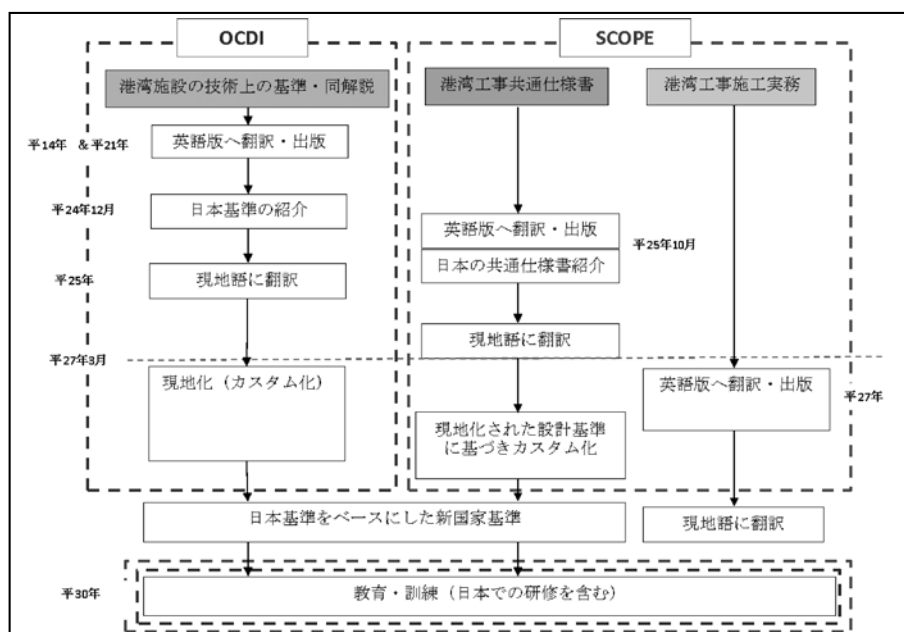
この策定支援に係る覚書に従い、平成26年7月、国総研よりベトナムの設計・施工技術基準策定検討業務が発注され、OCDI + SCOPE のJVで受注し、ハノイ2回、日本1回のワークショップを開催しました。さらにベトナムの港湾施設の建設状況を調査するため、梅沢研究主幹と牧野主任研究員とともに、北部のラクフェン港、南部のカイメップ・チャーバイ港、サイゴン港を視察しました。

本年度についても、OCDI とのJVで、港湾施設の一部の工種について、日本基準をベースとした設計基準案、施工管理基準案を具体的に検討する予定です。新ベトナム基準が策定できれば、港湾の技術基準が未整備のミャンマーなどの国々を対象に、日本基

準をベースとした基準策定支援を展開できると考えています。これらの国々にとって、統一された技術基準策定のメリットとして、全土で同じ規格の港湾施設の建設、技術力の向上、品質の確保、運用・維持管理の系統的管理に資すると考えています。一方、日本企業に対しても、設計・工法変更等の協議がスムーズになり、リスクの軽減が図られるようになります。

ただし、基準を策定しても実効性がなければ意味をなさないことから、現地技術者に技術的な裏付け等を十分理解してもらう必要があると思います。そのためにSCOPE では、「初級・中級技術者のための港湾工事施工実務」及び港湾局の「港湾工事施工手順書」を基礎資料とした英語版「港湾工事施工ハンドブック」を作成し、これと英語版の「港湾工事共通仕様書」とを併せて使用し、来年度以降、現在ベトナム国から申請中のJICA の技術協力スキームを利用して、ベトナム国への技術支援とベトナムのエンジニアの教育を進めたいと考えています。

ベトナムにおけるこれまでの活動と今後の予定は下図の通りです。



最後に、この2年間に何度かベトナムを訪問しいろいろな方々と交流した中で、私の感じたベトナムを紹介したいと思います。

1. とにかくバイクの多い国である。



2. 若い人が多い(中高年層は、ベトナム戦争で多くが亡くなった)。
3. 働いている女性が多い(幹部に女性が多い)、また妊娠している人が多い(3人に一人?)。



4. 決定事項が、上司の判断で覆ることが結構ある(最終責任は大臣しかない)。
5. 民族衣装のアオザイは美しい。



6. おいしい食べ物がたくさんある。
7. 美しい風景、懐かしい風景がたくさんある。



是非、皆さんもベトナムを体験してください。

Site Visit

SCOPE 現場訪問

—沖縄の観光客数 1000 万人達成のために—

那覇空港滑走路増設整備事業



沖縄支部

支部長 栗田 一昭さん

副支部長 池原 興栄さん

那覇空港支所

テクニカル・エキスパート 知念 栄さん

テクニカル・エキスパート 江戸田 章弘さん (四国支部)

テクニカル・エキスパート 神田 和宣さん (北陸支部)

テクニカル・エキスパート 米澤 雅樹さん (北海道支部)

People who create port and airport.

沖縄の社会基盤となっている那覇空港

那覇空港は沖縄と国内外各地を結ぶ拠点空港で、沖縄本島と離島を結ぶハブ空港としても重要な役割をもっています。沖縄でもっとも重要な産業である観光業をはじめ、県民の生活や経済を支える重要な社会基盤です。

那覇空港は、滑走路1本で運営されている空港としては国内で2番目に利用頻度が高く、国内の主要空港のなかでは旅客数、貨物取扱量ともに上位につけています。観光シーズンのピーク時を中心に増便されているものの、希望する便の予約が取れないという状況も生まれています。沖縄のメイン産業である観光をさらに活性化させ、沖縄県が掲げる入域観光客数1,000万人を達成させるためにも、滑走路増設を含む那覇空港の機能向上の必要性はますます高まっています。現在の需要に対応しつつ、将来、国内外航空ネットワークの拠点として強化していくために、平成26年1月から、現滑走路の沖合に並行して2本目の滑走路を増設する工事が着手されました。

People who create port and airport.

サンゴ礁の美しい海を守る環境保全対策

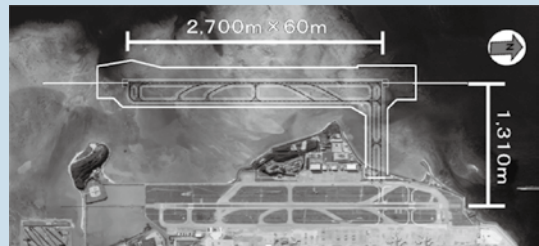
増設される滑走路は2,700m、現滑走路から1,310m沖合に埋立地を造り新設します。現場の北側は深い水深から急激にリーフが立ち上がる沖縄特有の海底地形になっていて、北風時には波が砕波する海象条件の厳しい場所です。

施工箇所は水深が浅く、作業船が接岸できる場所が限られているため、護岸工事に先立って仮設棧橋を設置、水深を確保するための浚渫工事も行っています。

「浚渫や護岸工事などで海底を施工するときには、濁りが拡散しないように汚濁防止膜を設置し、さらに石材の洗浄を行っています。また、汚濁防止膜の内外で濁りの状況をモニタリングし、濁度が基準値を超えることがないようにしています」(副支部長 池原さん)

DATA 那覇空港滑走路増設整備事業

- 整備施設：滑走路2,700m
- 事業期間：平成26年1月～平成31年末
- 総事業費：約1,993億円



移植元から採取したサンゴを
水中ボンブで固定します。

このほかにも沖縄の美しい海を守るための対策として、サンゴ礁や藻類の保護を行っています。護岸の前面に設置する消波ブロックや植石に凹凸加工を施し、サンゴ類の着生を促進させる試みを行うとともに、埋立地部分に生息していたサンゴの移植を実施しました。

「SCOPEは、船上で場所を確認し、移植作業が安全に行われているかを確認しています」(テクニカル・エキスパート 神田さん)

People who create port and airport.

SCP工法による地盤改良工事

沖合の一部には軟弱な地盤があるため、昨年6月～7月にかけて地盤改良工事も行われました。改良法としては、軟弱地盤に強く締め固めた砂杭を打込み地盤を強くするSCP（サンドコンパクションパイル）工法が採用されています。SCOPEの役割としては施工場所の位置確認や、深さのチェック、所定の砂の量が入っているかなどの確認を行っています。



「今は仮設栈橋の整備や、埋立工事に先駆けて水深の深い場所にケーソンを設置する作業、埋立地の外周に護岸を設置する工事を数箇所の工区で同時に行っています。外周護岸の工事だけで約

8.5kmあり、10箇所くらいで同時施工しています。これら一連の作業でもっとも重要なのは、運用している空港に支障が出ないようにすることです。施工に使用するクレーンや作業船が空港の制限表面をクリアしているか常に確認し、注意を払っています」（副支部長 池原さん）



People who create port and airport.

全国から集まった技術者によるチームワーク

今回の事業は規模が大きく、また平成31年末の完成予定を目指す短工期スケジュールのため、他の支部からも支援要員が集まっています。北は北海道、南は四国まで各地から技術員が集まり、この事業に携わっています。

「これはSCOPEでは珍しい体制です。この事業が着工される1年以上前から支部長会議などで支援の要請を行い、最終的には本部指導で支援体制を決めました。沖縄特有の環境などについては、年2回の研修、月1回の打合せ、各支所での工程会議などで環境対策等の情報交換を行っています」（支部長 栗田さん）

People who create port and airport.

Voice

現場からの声

【テクニカル・エキスパート 知念 栄さん】

管理技術者を筆頭に、テクニカルアドバイザー、担当技術員、計16人の大所帯で、約半数は他支部からの応援メンバーです。個性派揃いで、ときどき意見の衝突もありますが、それも皆が真剣に取り組んでいるからだと思っています。皆さん、那覇空港の第二滑走路が供用開始した暁には、ぜひ“ウチナーンカイ、メンソーリョー（沖縄にいらしてください）”。

【テクニカル・エキスパート 江戸田 章弘さん】

四国支部から沖縄支部へ転勤して1年3ヶ月が過ぎましたが、この事業で一番大事なのは自然環境への配慮だと思っています。綺麗な海を綺麗なまま次世代に伝える為、新滑走路の増設に取り組んでいます。暑い沖縄ですが、那覇空港支所には洗濯機2台、乾燥機2台、シャワー室が2室に休憩用の畳部屋もあり快適です。個性豊かな方々の中でたくさんの経験を積んでいます。皆さんも、ぜひ綺麗な海に浮かぶ滑走路を見にきてください。



▲左から 江戸田さん、神田さん、知念さん、米澤さん

【テクニカル・エキスパート 神田 和宜さん】

北陸支部から赴任して1年3ヶ月が過ぎ、沖縄の気候にもようやく慣れてきました。今回のような広域異動は前例が無いと聞いていますが、その一員として参加できたことはとても意義深く、光栄なことだと思っています。現在携わっている業務もなかなか経験できないような大規模なプロジェクトで、難しい面もありますが楽しんで業務に従事しています。北陸とは違う海象条件で、たとえば海底に捨石を入れて土台を作るときに潜水士さんが潜るのですが、潮の流れが速いために作業が難しく、そういうときは機械を使ったりいろいろと工夫しています。この沖縄支部での経験を今後、自分の業務に活かせるように精進していきたいと思っています。

【テクニカル・エキスパート 米澤 雅樹さん】

北海道支部からこちらに来て浚渫工事1件とケーソン製作工事2件の担当工事が終わりましたが、大変だったのは北海道との気温差です。現場での立会合は、朝一番と夕方に集中。工事受注者は私に配慮して、気温の高い時間帯は避けていたようでした。でも、冬の北海道ではなにをするにも雪かきという作業がありますから、それが無いのは楽ですね。また、最初は方言の違いによる戸惑いもありました。誤解がないように相手が納得しているかを確認するようにしています。北海道支部へ戻ったときには、ここで経験した事を活かしていきたいです。

People who create port and airport.

沖縄特有の厳しい海象条件と暑さ対策

7月下旬の取材時は、台風9号の対策のため汚濁防止膜を引き上げており、台風12号接近の影響で作業は一時ストップしていました。台風の影響を受けやすい沖縄では、スケジュールの管理や安全管理にもより注意が必要です。また、立っているだけでも強い日差しで体力を奪われるような猛暑の対策として、首筋を守る布がついたヘルメットの装着や、水分・塩分補給対策なども徹底して行っています。



「平成31年末の供用を目指し、全国から集まった技術者たちが、土日、正月やゴールデンウィークなどの祝祭日も返上して作業にあたっています」（支部長 栗田さん）

那覇空港に待望の新滑走路が完成すれば、海外からもたくさんの方が訪れる日本を代表する観光地として沖縄がますます賑やかになることでしょう。



取材・文：(株)ホライゾン

SCOPE からのお知らせ

平成27年9月以降の主な行事予定

- 第34回 公共調達のあり方を考える講演会
 - 日時：9月3日(木) 16時から
 - 講師：高知工科大学 技術顧問・客員教授 國島 正彦 氏
 - 演目：「高知の新たな公共工事システムを求めて」
 - 会場：尚友会館 8 階会議室
- 港湾施設の維持管理 実務技術研修
 - 日程：9月10日(木)、11日(金)
 - 会場：10日 尚友会館 8 階会議室
 - 11日 東京湾大井埠頭 他
- 技術講習会(秋)

・沖縄会場	ネストホテル那覇	10月3日(土)
・東京会場	TKP ガーデンシティ渋谷	10月17日(土)
・高松会場	高松センタービル	10月24日(土)
・名古屋会場	名古屋都市センター	10月31日(土)

※ 詳細は、当センターのHPでご確認ください。

皆様のご意見ご感想をお待ちしております。



一般財団法人 港湾空港総合技術センター

URL: <http://www.scopenet.or.jp> E-mail: info@scopenet.or.jp

本部：〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-1 尚友会館3階
代表 TEL: 03-3503-2081 FAX: 03-5512-7515

※本誌は、環境に優しい大豆インクで印刷しています。